

会報

大学生協友の会



2021年11月1日

第32号

発行:大学生協友の会

〒166-8352 東京都杉並区和田 3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL 03-5307-1111
E-mail: unicoop@univcoop.or.jp ホームページ <https://unico.itigo.jp/>

大学生協友の会 秋の親睦会のご案内

友の会幹事長 伊野瀬十三

コロナ第5波の感染者が急激に減少する中、緊急事態宣言が全面的に解除されました。多くの専門家が第6波が来ることを予測し、警戒と準備を怠らないよう注意喚起しています。私自身も宣言が解除されたとは言え行動範囲を一気に広げる気持ちはなく、基本的には自粛生活を継続しています。

この間の大学生協の事業をめぐる状況は、多くの大学が引き続きオンライン授業を実施する中で、経営的にも組織的にも危機的であることに変わりはありません。大学当局との協力、地域生協など生協の仲間の支援、そして何よりも役職員のがんばりによって何とか踏んばっているのが実態です。大学生協友の会も支援活動の一環として、ブロック(地連)へのカンパ活動を行なってきましたが、会員の皆さんの御協力にあらためて感謝申し上げます。

コロナ対応で失敗を重ね、国民の信頼を失った菅内閣は総選挙を前にして政権を放棄しました。交代した岸田政権は党役員や内閣の顔ぶれ選挙公約を見ても安倍・菅路線の継承であり

安倍・麻生のまさに傀儡政権です。

直近の世論調査でも新任のご祝儀相場ならず、低い内閣支持率となりました。この会報が会員の皆さんに届くまでには総選挙の結果は出ているわけですが、是非とも政権交代をして欲しいと思っています。

来たる12月4日(土) コロナが現状のまま推移することを前提に友の会の定例親睦会の開催を予定しています。開催にあたって第6波も心配されることから感染対策をしっかり行いつつ、食事は軽食のみとし、アルコールも提供しません。そして、直接参加できない会員の皆さんのために、ズームを使ったオンライン参加ができるようにします。親睦会の内容についてはコロナ下での近況報告とあわせ大学生協の現状や再生に向けた支援計画等について意見交換をしたいと思っています。

多くの会員の皆さんの参加をお願いいたします。

12月

友の会会員親睦会のご案内

日時:二〇二一年12月4日(土)

午後2時30分から午後4時まで

会場:杉並会館会館(B103・106)

◆10月末現在の開催条件は、ソフトドリンクと軽食による親睦会です。アルコールは予定していません。

◆11月25日時点で感染状況を評価のうえ大学生協の指示に従い、開催可否や親睦の内容を決定します。開催不可の場合はメール・葉書などでご連絡します。

◆会場に来られない方で、インターネット使用環境がある方はZOOMを利用したご参加ができるよう準備します。

◆ZOOM参加の方は、メール・返信葉書等でその旨連絡下さい。(メールアドレスは上記)

◆ひびくひびくので近況をお知らせください。

尚、同日13時〜14時は第1回幹事会を予定しています。

私と大学生協

1960年前後と70年前後の二つの時代(3)——了

—インタビュー・斎藤嘉璋—

早大生協は戸山ハイツ生協へ山岸啓介さん、練馬生協へ小林敏男さんを派遣、大学生協関係では武蔵大学生協への川上邦博さんの派遣をはじめ日本女子大生協、工学院大学生協、宇都宮大生協に幹部人事の派遣を行った。宇都宮での市民生協づくりや長野の飯田生協再建への支援などをおこなった。

戸山ハイツ生協支援では、早稲田店の出店と共同購入活動の展開に合わせ職員の派遣を続けると同時に、理事や組織部の学生を一時生協で採用、訓練して派遣するなど、戸山店オープン(73年5月)にむけて継続して人事派遣を行った。東京生協は日本生協連の地域住民・組合員に根差さない上からの組織・事業の展開で失敗、大学生協はその支援活動から撤退することになり、早大生協に戻った職員は戸山ハイツ生協に派遣された。

東京事業連合へいくつかの思い
出
私が専務に就任した時は同盟体
東京事業連合のあり方論議の最中

で、主に人事権を連合に集中するかどうかが焦点になっていた。東大生協の高橋忠信さんと私の意見は、単一化にちかい権限集中を主張する法政生協の桐原良彰さんと対立し議論が続いたが、結局、人事権は連合に提案権があるが決定権は単協にあるということで決着した。そんなこともあり、70年1月に東京事業連合が東大、早稲田、慶応、理科大の4生協で発足、法政生協は2年後の参加となった。事業連合の諸機能と単協との関係を決める業務委託契約の起案は早稲田の今井隅田さんが中心になつて起案し、各部門や経理処理に関する業務委託内容と費用分担に関する合意形成をすすめた。各部門ごとの合意にあわせ職員の単協から連合への移動も進められたが、新米専務の私は大学生協の連帯感の強さに改めて感心したものだつた。

事業連合時代は、実務的には早大生協から移籍の今井隅田さんや東大生協から移籍の伊藤久美栄さんなどに助けていただき、私は全域同盟化などの組織問題や地域生協支援に関することなどに時間を割いていた。

今思い出すのは小諸山荘と朝霞物流センターのことで、小諸山荘は板橋にあった5単協統一寮を閉鎖することから始まった。60年代の高度成長期に地方から高卒(初期は中卒も)の若者を迎えるため必須だった寮もその役割を終えたと封鎖することにし、代わりに職員の福利厚生と研修施設として浅間山のふもと小諸に宿泊施設を造ることになった。74年3月開設の小諸山荘の建設を軽井沢周辺の別荘開発業者に委託してすすめた。格好いい山荘ができ、寮の管理人だった隈部夫妻に山荘の管理人になつてもらったが、冬になると暖房も効かず住めないという。業者に手抜きではないかと迫つたら、そもそも軽井沢付近では別荘などは冬は閉鎖するので冬季に住む耐寒構造にしていけないと言ふ。耐寒及び暖房を補強する工事を追加することになった。また、国土地理院の図面にあるはずの水脈が幾ら掘っても見つからない、掘削には1メートルごとに十数万円を要したことやテニスコートをつくつたが一夜の雨で火山灰に覆われてしまい、ダメになったといった苦い経験をした。安いと思つて買ったが、高いものになってしまった。しかし、小諸山荘は戸山ハイツ生協の理事合宿などにも使わせてもらい

喜ばれた。

73年の「朝霞経理流通センター」の開設で思いだすことは、取得したあの敷地は倒産した中小企業の工場であり、最初に現地見学に行くと労働組合が赤旗をたてて、「退職金を払え」と労働争議が起こっていたことだ。係争案件だったこともあって廉価であり、場所も悪くなかつたので、たしか3千万万円だつたと思うが購入することになった。埼玉地裁の係争事案であつたため、購入にあたり埼玉地裁は決裁代金を裁判官立ち会ひの下に経営者側と労働者側に分割するために現金を地裁に持参せよと言う。地裁に近い協和銀行浦和支店から3千万円を出金し、銀行職員も監視に追尾頂き、経理職員と二人で使い古しの買い物袋に入れて地裁まで歩いて持参したのが忘れられない。その時世話になったのが当時大学生協連の顧問弁護士の本尾泰二さんだつた。彼は東大生協創立間もないころのメンバーであり、日本生協連の福田繁さんの後任として学生専務理事になつた人であつた。裁判官は、左右にたつ両者代理人のテーブルに積まれた札束を手で両者に区分けし、確認と領収サインを求め作業を完了させた。大学生協としてはじめての自前の「朝霞経理流通センター」の

稼働、運用がはじまった。その頃はデリバリーセンター・DCとか言った言葉はなく「倉庫」であったが、その「倉庫業務が好きだ」と伊藤隆志さんが立候補してくれたのが印象的だった。伊藤さんはその後、日本生協連の物流部門のトップとなり、生協の全国物流ネットを管理運営することとなった。

いくつかの失敗もしながら事業連合の運営をなんとか軌道に乗せて、私は74年5月に浅井康男さんに事業連合専務理事をバトンタッチして、戸山ハイツ生協専務理事を山岸さんから引き継ぐことになった。東京生協支援を名目にした出向期限はすでに終わり、日本生協連を退職しての新しい任務だった。私はその後、合併した都民生協と東京都連の役員をへて1982年再び日本生協連に戻るが、学生時代の3年とその10年後の役員として5年余の大学生協での日々は通算40年を超える生協人生の中で本当に貴重で、思い出多いものであった。



生活と健康を守る会で悪戦苦闘中

峯松 益幹(2021年退職)



いるなという本音はともかく、決してイヤなのではなく、残り少ない人生、何ていうかどこかで大学サマに気を遣ってシゴトするより、何の遠慮も容赦もなく、言いたいことを言い、やりたいことをやって終えたいと思っただけです。

縁の有った民主団体から熱心なお誘いを受け、「全国生活と健康を守る会連合会(全生連)」にお世話になることを決めました。「ひとりではみんなのために。みんなはひとりのために」というスローガンは生協と同じですし、何より社会的弱者のために共に活動している心意気に魅かれました。間もなく神奈川県連(会員数1350人)の事務局長に推される身なのですが、一番の衝撃は受けする相談ごとのシビアさです。

「もうすぐ癌で死んでしまうのですけど」「紹介された無料宿泊所にはとても居られなくて今夜泊まる場所が無い」「コロナで仕事なくなつた。国民健康保険料が払えない」等々。今まで自分が如何に、のうのうとお気楽に生きてきたかを思い知らされる日々です。ただ、相談者さんには言い方は優しくも、初めに

言い伝えておく言葉があります。「はつきり申しておきますが、助かりたいのであれば一番は貴方ご自身のご努力ですよ。私どもはそのための道筋を一緒にお示しはしたいと思いますが、ご本人に替わって何かやってくれるとお思いならそれは違います」

生活保護利用者とたくさんお知り合いになりました。(アンタ、日福大社会福祉学部出てののに知らないのかいとよくイジられます) 皆さん、気持ちのやさしい方ばかりです。何らかの障害をお持ちの方の割合がとても高いです。働かないのではなく働く場が社会として準備されていないだけのことです。

初めの頃、この組織の活性化についてのビジョンならすぐに描いてみせるわとタカをくくっていたのですが、全生連のみならず我が国の民主勢力の現状は実に、なかなか手ごわいものがあります。大学生協の先輩方となら常識で話せるような事柄が通じないことも多々あります。

☆行政の方にはお立場というものが有るのであって、そこを理解しつつ交渉しないとダメでしょ。頼りにされる団体になりましたよ。

☆毎年の大会とまでは言わないけど幹部が替わる時に残高証明書ぐらい取りましようよ。

79年だったでしょうか、私が水産大生協で故牧山圭一氏のもとで学生バイトやっていた頃から、目をかけていただいた大久保厚(当時、事業連合業担)さんが、もしも、いつもの調子で「ミネマツ君よう、大学生協人生振り返って一番得たモノは君にとって何だあ?」と訊かれたとしたなら私は「うーん、協同組合人としての矜持(きょうじ)」といったものですかね」「こう答えると思います。」

この3月で定年再雇用も終え、気心知れた複数の会員専務から「ミネさん、時給でも構わないのだったらウチに來ないか」ありがたいお誘いも受けたのですが、きっぱり大学生協から「足を洗う」ことにしました。大学生協が近頃つまんなくなってきた

☆中央で指導する役割の者こそ努めて現場に足運ぶのが信頼関係じゃないの。・結構、「浮いている」奴だと思いますが、そうしたことへの風圧には大学生協時代から鍛えられていますのでひるむことはありません。

話が大きくなりますが、この国には新婦人や婦人民主クラブのような進歩的な女性団体こそ有りますが、特にオヤジ、ジイさんが気軽に加わって元気に楽しく活躍できそうな民主的な団体が見当たりません。そのことがこの国の革新勢力の結集に少なからず影響が有るのではと私は真剣に考えもします。生健会はそのような役割（活動は男女混合です）を担えないかという大志を抱く毎日です。

ぜひ、大学生協出身の経験豊かな皆さんの関与・お力添えをお願いします。きつと歓迎されるに違いないありません。

（ミネマツマスミ 神奈川県生活と健康を守る会連合会事務局・全生連全国理事）

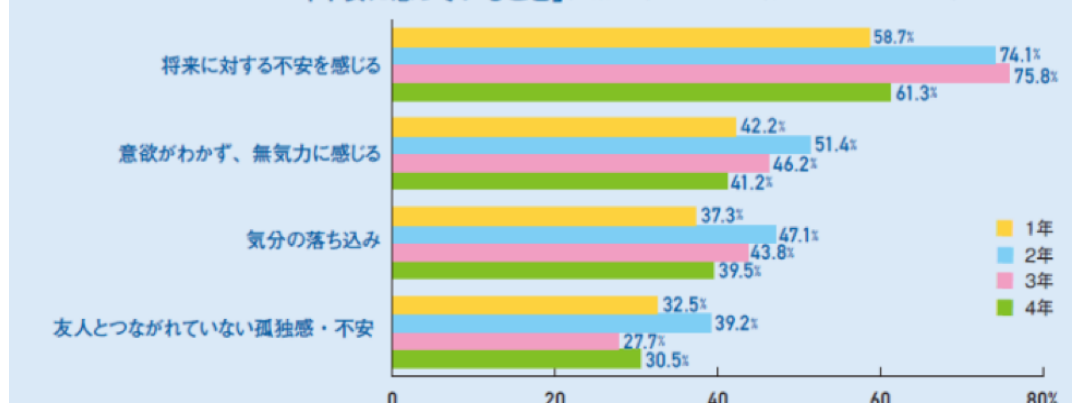
コロナ禍の大学生生活アンケートより

全国大学生協連広報調査部・安田祐司

「コロナ禍と大学新入試を乗り越え、夢だった大学に入学した。でも、高校二年で参加したオープンキャンパスのときに描いた未来と今の私はまったく違う。キャンパスをたくさん友だちと歩くことも、昼食を仲良く笑いながら食べることも、休日に友だちや家族とどこかへ出掛けることもない。このきもちをどう伝えよう。くるしい。さみしい。もう、限界。だけど、今の私は真正正銘の私だ。私はこの時代を生きて強くなる。きつと、人の痛みに気づき、寄り添えるような優しい人に。」

これは、全国大学生協連で2021年7月に実施したコロナ禍の大学生生活アンケートの自由記入欄にあつた声のひとつだ。書いたのは、京都府／文科系／女性／1年の方。アンケートのこうした声に、何かしたいとの思いで、10月31日に“全国大学生サミット”というイベントを開催することとした。大学生が集まり、現状やこれからの大学生生活について語り合おうという趣旨の企画だ。（本原稿が読者の目に触

「不安に思っていること」(複数回答) / 7832人(うち1～4年7637人)の回答より



このアンケートから、特徴的なデータをひとつ紹介したい。

選択肢は8つあるのだが、上位5つをグラフ化した。コロナ禍による不安がかなり大きい印象だ。

また、ほとんどの項目で現2年生の数字が最も高いことが特徴だ。彼らは大学入学時とほぼ同時にコロナ禍となり、そのまま1年半が過ぎてしまった状態で、そのことが数字にも表れていると言える。

このアンケートは、コロナ禍のなか頑張っていること、大学生活の充実度、オンライン授業と対面授業で感じることなどを報告している。大学生の生の声も多く紹介しているので、ぜひご覧いただきたい。

コロナ禍の大学生生活アンケート集計結果は全国大学生協連WEBサイトにて公開しています。

<https://www.univcoop.or.jp/covid19/index.html>

友の会会報への投稿、原稿募集中

退職後の近況や体験、在職時の経験や思い出など、短い近況でも結構です。事務局までお寄せください。

◆ 字数：500字～1600字（応相談）

◆ 送付：会報1面にある住所かメール添付にて